



身延清稜小だより

身延町立身延清稜小学校 TEL.0556-42-2520
令和3年9月1日 校長 佐野三代司
学校教育目標「進んで学び やさしい心もち
心身ともにたくましい児童の育成」

2学期が始まりました

～感染症対策をしながらも、充実した学校生活を～

36日間の夏休みを終え、2学期が始まりました。

朝、子どもたちが元気に登校してくる姿や教室で集中して話を聴く姿、休み時間や放課後、元気に外で遊んでいる姿等、学校にいつもの子どもたちの元気な姿が戻ってきたことをうれしく思っています。

おかげさまで夏休み中、大きな事故もなく、52人の子どもたちが2学期を迎えることができます。ご家庭の皆さんには、夏休み中の子どもたちへの対応、本当にありがとうございました。

今年の夏休みは、昨年のコロナ禍の夏休みが短かった分、長く感じましたが、これまで私たちがずっと経験してきた夏休みとは、全く異なる長期休業となりました。

新型コロナウイルス感染症の猛威は留まるところを知らず、県下にも「まん延防止等重点措置」が出されています。せっかく中部横断道が全線開通したとはいえ、静岡県には緊急事態宣言が出された状態です。デルタ株・変異株と言われる、昨年にはなかったウイルスの感染力は大変大きく、昨夏とは全く異なる状況になってしまいました。子どもたちはかからない、かかっても無症状か軽症、と言われてきたことも、もはや過去のことであるような事例が報道されています。

大勢の大切なお子さんをお預かりする学校としては、緊張感が大きく増し、身の引き締まる思いがしているところです。子どもたちの協力も得ながら、確実に感染症対策を進めていく必要を感じています。一方、子どもたちの健全な成長を考えると、感染症への対応が終わりの見えない中でも、対策をしっかり継続しながら、学校教育ならではの学びや経験を大事にして、日々の教育活動が進められるよう努力していきます。

今回、8月27日の始業式は、児童は学年それぞれの教室に分散し、校内放送を利用して行いました。私は校長の話として、テレビで見たパラリンピックの開会式から、自分自身が印象に残った場面を、次のように話しました。

「校長先生は、先日パラリンピックの開会式をテレビで見ました。教室で写真を見せてもらっているとありますが、片側にしか翼がない小さな飛行機が勇気を出して、大空に飛び立っていく物語が演じられました。主人公を演じたのは、車椅子の中学生だったそうです。勇気を出してチャレンジしていくことの大切さが伝わる、とても素晴らしい場面でした。パラリンピックは、まだまだ続きます。皆さんも、パラアスリートの活躍を、テレビでぜひ見てください。」

東京オリンピック・パラリンピックで躍動するアスリートたちはもちろん、大きなイベントを支える人たちの努力によって、大事業



が成し遂げられていくのだと思います。競技を終えた直後、アスリート達が互いをたたえ合う姿に、心が温かくなるのは私だけではないでしょう。パラリンピックは5日までです。是非、御家庭での話題にしてみてください。

9月1日は「防災の日」です

今年の夏も、国内では、長雨による自然災害が発生し、尊い人命や財産が失われたことも記憶に新しい出来事です。これから台風の本格的な時期を迎えるにあたり、本校周辺の地域でも、いざという時のための物心両面での準備が必要です。

身延町の指定により、本校体育館は「臨時避難所・指定避難所」となっています。「警戒レベル3・高齢者等避難」の情報が発令された場合や自主避難の場合に開設されます。さらに、校舎2階・3階は「指定緊急避難場所」となっており、「警戒レベル5・緊急安全確保」の際に開設されます。本校ではこの夏休み中に、教職員で図上による垂直避難訓練や防災倉庫の物品確認を行いました。皆さんもお住まいの地域のハザードマップや避難所等を確認していただき、災害に備えていただきたいと思います。



運動会は9月25日(土)、 元気に活動する子どもたちの姿をご覧ください

9月は運動会の時期でもあります。今年もコロナ感染症対策のために、運動会の規模を縮小し、午前中のみの実施となっています(児童のみお弁当の準備をお願いします)。限られた時間の中で、感染症対策をしながら、できるだけ子どもたちが例年と同じような経験ができるよう、職員で工夫をしています。なお、昨年に引き続きコロナ対策としてのお願ひ事項もいくつかあります。PTA役員会が13日(月)に延期となったため、役員会以降のお願ひとなるものが懸念されますが、安心安全な中で行える運動会のため、とご理解いただき、ご協力をお願いいたします。



偏見や差別のない社会や学校に

コロナ感染症対策に、学校をあげて力を入れ、取り組んでいる毎日です。しかしながら、予期せず感染してしまう可能性がないとは言いきれません。感染のリスクを100%完全になくすことは、社会生活を送ったり、通勤通学をしたりしている以上、完全にはできないと言われていています。一方、新聞・ニュース等では、感染した人やその家族への心ない対応が起きている事例があるとされています。コロナを恐れる気持ちから起きていることであることは理解しつつも、偏見や差別は避けなければなりません。感染症対策をしっかり講じつつも、偏見や差別のない社会や学校をめざしていきたいものです。

山梨県各地に、まん延防止等重点措置が発出され、感染症対策のレベルも上げざるを得ない状況です。ご家庭の皆さんにも、安全な登校のためにご負担をおかけしています。学校の感染防止策に、ご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

